

教育目標： 進んで学び心身ともに健康で思いやりのある人になる

目指す学校像： ①個性や能力を活かし、「確かな学力」を育む学校 ②思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校 ③心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校

目指す児童・生徒像： ①自ら進んでとりくむことができる生徒 ②心身ともに健康で、互いを尊重できる人間性豊かな生徒 ③個性と創造力が豊かな生徒

目指す教師像： ①創意ある教育活動に意欲的に取り組むことのできる教師 ②生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師 ③高い人権感覚をもち、自ら範となり伝えることのできる「教師」

項目	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
学習指導	1 基礎	学習したことを次の学習や生活に活かしていく視点で、基礎的・基本的事項の修得を図る。	基礎的・基本的な知識・技能の修得率の向上を図る。	①授業の際、その時間の目標と流れを明示する。 ②数学と英語の習熟度を考慮した少人数指導、保健体育の一部で教員2名体制の授業を実施し、指導法の工夫改善に努める。 ③夏休みや定期考査前などにおいて、補充学習を実施。	3.3		3	肯定的評価は、生徒が90.9%に対し、保護者は78.2%であった。保護者の方が、我が子の学力向上を課題ととらえる傾向が伺える。	生徒より保護者の方が厳しい回答であった。5段階評定「3」以上を目標に、授業の工夫改善、サポート教室での学習の充実を図る。
	2 活用	生徒が主体的・対話的に取り組めるよう、指導技術の改善を図る。	言語活動を充実させ、より生徒が主体的・対話的に取り組めるようにする。	①知識や技能を相互に関連付け、問題を見出し、見通しをもって取り組めるようにする。(主体的学習) ②対話を通して情報を精査し、課題解決に向けた方策を形成できるようにする。(対話的学習)	3.2		3	肯定的評価は、生徒が91.6%に対し、保護者は82.2%であった。多くの生徒が話し合い活動に参加している様子がうかがえる。	多くの生徒が熱心に取り組んでいることが伺える。このことが、一人一人の学力に結びつかせるよう、振り返りを充実させる。
	3 評価	絶対評価の特性を踏まえ、生徒の学習状況を客観的に評価する。	公的学力調査結果などを踏まえ、適切な評価基準を定める。	①年間指導・評価計画を各家庭に配布し、授業に関する共通理解を生徒・保護者・学校の三者間で図る。 ②各学期末に評価材料の配点を家庭配布する。また、授業での生徒説明も行う。	3.4		3	肯定的評価は、生徒が92.3%に対し、保護者は83.9%であった。学期末ごとに家庭配布する「評価評定の内訳」により理解を求めていく。	授業中に評価の説明を行っていることもあり、良い評価をいただいた。次の学習目標につながるよう、具体的な助言を行っていく。
	4 道徳	道徳授業の教科化に向けて、指導計画の立案、指導技術の改善を図る。	考え議論する道徳授業への質的転換を図れるよう努める。	①意見を出し、議論する中で多様な価値観を学べる道徳授業への転換を図る。 ②いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげる。 ③多様な価値観を認め合える校風を醸成する。性の多様性について講演会を開催し、人権尊重の意識啓発を図る。	3.1		3	肯定的評価は、生徒が90.9%に対し、保護者は78.2%であった。性の多様性の講演会では、生徒の理解が深まったものと考える。	次年度より、道徳は教科となる。自分の意見をもち、相手の意見も尊重し、議論を発展させていける道徳授業に努めていく。
生活指導・進路指導	5 人権	生徒の人格を尊重し、個性を伸ばしながら、社会的資質や行動力を高める。	人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。	①「仲間を大切に」を合言葉に生徒一人一人が大切にしたいできるようにする。 ②いじめ防止基本方針に基づき、未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ③いじめ防止基本方針の生徒・保護者向け概要版を生徒に配布・指導し、意識啓発に努める。	3.3		4	肯定的評価は、生徒が96.2%に対し、保護者は97.6%であった。保護者の方が高評価であり、今後も安心できる学校であることが重要である。	生徒・保護者とも好評価であった。今後とも安心して通える四中であるよう努め、学級の諸問題には迅速に対応していく。
	6 支援	様々な困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	障害者差別解消法に基づき、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う。	①合理的配慮について、関係者との合意形成を図りながら実施する。 ②障害者差別解消法の理念と本校の支援内容について全校周知を図る。 ③「四中のサポート体制」という冊子を配布し、全保護者に本校の特別支援教育について理解してもらえるようにする。	3.0		4	肯定的評価は、生徒が89.5%に対し、保護者は90.5%であった。昨年度は生徒77.3%、保護者71.9%であり、好評価が高まった。	障害者差別解消法の合理的配慮についてはまだ不十分である。合わせて、学校や教員の認識転換を図っていくことが第一課題である。
	7 安全	生徒の危機管理意識を高めるとともに、自他の命や安全を守るようにする。	情報通信機器および巨大地震を中心に危機管理意識を高める。	①情報通信機器の安全な使い方について、セーフティー教室を開催する。 ②生徒の情報通信機器の取り扱いについては、保護者の理解・協力を得るため年度当初の保護者会にて専門家による講話を実施する。 ③巨大地震発生時の対応をはじめ、様々な安全課題に取り組む。	3.2		3	肯定的評価は、生徒が87.8%に対し、保護者は81.6%であった。保護者の評価が低く、生徒の携帯電話等の使い方に不安があることが伺える。	携帯電話等は、ご家庭での約束と監督が欠かせない。今後とも生徒への繰り返し注意喚起とともに、家庭との連携を図っていく。
	8 進路	総合的な学習の時間を活用し、3年間系統的に進路指導を行う。	総合的な学習の時間を活用し、3年間系統的に進路指導を行う。	①将来への希望を抱き、その実現のために主体性を育む。 ②系統的な進路指導により、自己理解、社会理解、情報活用能力を育む。 ③1学年では職業調べ、2学年では職場体験学習及び上級学級体験、3学年では自己の進路選択といった系統的な指導を行う。					
特別活動・その他	9 学級	学級活動を通して、生徒全員が大切な居場所であることを実感できるようにする。	仲間を大切にしたい学級づくり(全員が仲間、違いを尊重、礼儀)を推進する。	①ユニバーサルデザイン化により、学級が大切な居場所として機能させる。 ②教室環境を整えるとともに、仲間を大切にできる学級をつくる。 ③生徒のもつ個性の多様性を係り活動等に生かし学級づくりを行う。	3.4		4	肯定的評価は、生徒が91.6%に対し、保護者は90.8%であった。しかし、10%未満の生徒がまだ学級になじめていないことにもなる。	仲間を大切にできる学級づくりを推進する。「①全員が仲間、②違いを認め合う、③礼儀を守る」の3点を大切にしている。
	10 行事	行事を通して、連帯感と責任感を高めるとともに良い校風を育む。	本校の伝統と校風を踏まえ、生徒会組織を活用しながら企画・運営を行う。	①運動会と合唱コンクールの2大行事を通して生徒の連帯感と責任感を育む。 ②1学年の校外学習、2学年の移動教室、3学年の修学旅行の実施にあたり、発達段階を踏まえた目標を定め、系統的に自主性と自立心を育む。	3.3		4	肯定的評価は、生徒が96.2%に対し、保護者は98.2%であった。主に運動会の成果であるが、2学期以降も行事での生徒の活躍を促していく。	2学期の合唱コンクールに向けて全力で取り組む。また、1年校外学習、2年移動教室、3年修学旅行で連帯感、責任感を育む。
	11 自治	自主的・実践的な生徒会活動を通して、学校生活の課題解決を図る。	学校生活や地域社会の課題を自らの課題として捉え、行動できるようにする。	①いじめ防止の取り組みとともに、学校生活が楽しくなるよう取り組ませる。 ②昨年度実施した「いじめ防止のための学級決意表明」を活かしていく。 ③役員以外の一般生徒も、四つ葉のクローバー運動(思いやり、正義、助け合い、伝統)等、生徒会の一員として行動できるようにする。	2.9		3	肯定的評価は、生徒が86.7%に対し、保護者は78.7%であった。生徒会活動は保護者の方にどう発信していくかが課題である。	11月のいじめ防止フォーラムに向けて、いじめ防止の取り組みを進展させていくなど、生徒の自治力を育てていく。
	12 特色	生徒、保護者、地域にとって親しめるよう、特色ある学校づくりを推進する。	関係機関や外部講師等の招聘等により、読書およびスポーツに親しませる。	①オリンピック・パラリンピック推進校として、スポーツに親しむとともに障害者に対する理解を深める。1学年はブラインドサッカー、2学年はゴールボール、3年生はボッチャ教室を開催する。 ②読書活動を推進し、毎朝10分間の朝読書を年間を通して実施する。	3.2		3	肯定的評価は、生徒が90.2%に対し、保護者は88.8%であった。朝読書と障害者理解は、豊かな心を育むという点で共通点がある。	朝読書は継続して行っていく。障害者理解については、パラリンピック種目の体験授業を行っていく。(2年実施済み)

## 解説

この「自己評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、努力指標と成果指標を分析し、改善策を提示したものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4(ほとんど達成した)、3(達成できた部分が多い)、2(達成できない部分が多い)、1(ほとんど達成されていない)となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果(ABCD4段階)を総合した評価です。AB合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。

教育目標：	進んで学び心身ともに健康で思いやりのある人になる
目指す学校像：	①個性や能力を活かし、「確かな学力」を育む学校 ②思いやりのある豊かな心を育み、安心して活動できる学校 ③心身ともに健康で、たくましく生きる力を育むことのできる学校
目指す児童・生徒像：	①自ら進んでとりくむことができる生徒 ②心身ともに健康で、互いを尊重できる人間性豊かな生徒 ③個性と創造力が豊かな生徒
目指す教師像：	①創意ある教育活動に意欲的に取り組むことのできる教師 ②生徒の健全育成に主体的に取り組むことのできる教師 ③高い人権感覚をもち、自ら範となり伝えることのできる「教師」

項目	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標	努力指標	成果指標	成果指標	改善策	学校関係者評価記入欄	
				(中間)	(最終)	(中間)	(最終)			
学習指導	1 基礎	学習したことを次の学習や生活に活かしていく視点で、基礎的・基本的事項の修得を図る。	基礎的・基本的な知識・技能の修得率の向上を図る。	①授業の際、その時間の目標と流れを明示する。 ②数学と英語の習熟度を考慮した少人数指導、保健体育の一部で教員2名体制の授業を実施し、指導法の工夫改善に努める。 ③夏休みや定期考査前などにおいて、補充学習を実施。	3.3		3		生徒より保護者の方が厳しい回答であった。5段階評定「3」以上を目標に、授業の工夫改善、サポート教室での学習の充実を図る。	授業のユニバーサルデザイン化の「本時のねらいと流れ」の明示が徹底できてきた。個人差のあるプール指導では3名の教員がおり安心感がある。
	2 活用	生徒が主体的・対話的に取り組めるよう、指導技術の改善を図る。	言語活動を充実させ、より生徒が主体的・対話的に取り組めるようにする。	①知識や技能を相互に関連付け、問題を見出し、見通しをもって取り組めるようにする。(主体的学習) ②対話を通して情報を精査し、課題解決に向けた方策を形成できるようにする。(対話的学習)	3.2		3		多くの生徒が熱心に取り組んでいることが伺える。このことが、一人一人の学力に結びつかせるよう、振り返りを充実させる。	話し合いの授業は生徒が積極的に取り組めているが、保護者の肯定的評価が10%程生徒より低い。取り組み内容をもっとお知らせしてはどうか。
	3 評価	絶対評価の特性を踏まえ、生徒の学習状況を客観的に評価する。	公的学力調査結果などを踏まえ、適切な評価基準を定める。	①年間指導・評価計画を各家庭に配布し、授業に関する共通理解を生徒・保護者・学校の三者間で図る。 ②各学期末に評価材料の配点を家庭配布する。また、授業での生徒説明も行う。	3.4		3		授業中に評価の説明を行っていることもあり、良い評価をいただいた。次の学習目標につながるよう、具体的な助言を行っていく。	評価については、資料の提示や授業の中での説明等、詳しく説明されていると思う。ただし、生徒から保護者へ伝わっていない部分もある。
	4 道徳	道徳授業の教科化に向けて、指導計画の立案、指導技術の改善を図る。	考え議論する道徳授業への質的転換を図れるよう努める。	①意見を出し、議論する中で多様な価値観を学べる道徳授業への転換を図る。 ②いじめ防止を含め、様々な学校生活との関連を図り、実践へとつなげる。 ③多様な価値観を認め合える校風を醸成する。性の多様性について講演会を開催し、人権尊重の意識啓発を図る。	3.1		3		次年度より、道徳は教科となる。自分の意見を持ち、相手の意見も尊重し、議論を進展させていける道徳授業に努めていく。	道徳教育は生活に活かせることが大切である。また、道徳教育の基本は家庭であるので、道徳授業の内容を家庭と共有していくことが大切である。
生活指導・進路指導	5 人権	生徒の人格を尊重し、個性を伸ばしながら、社会的資質や行動力を高める。	人権尊重を基盤とし、生徒一人一人の存在と多様性が尊重される集団を育む。	①「仲間を大切に」を合言葉に生徒一人一人が大切にしたいできるようにする。 ②いじめ防止基本方針に基づき、未然防止、早期発見、早期対応を図る。 ③いじめ防止基本方針の生徒・保護者向け概要版を生徒に配布・指導し、意識啓発に努める。	3.3		4		生徒・保護者とも好評価であった。今後とも安心して通える四中であるよう努め、学級の諸問題には迅速に対応していく。	生徒がとても落ち着いており、生活指導が大変であった時代とは隔世の感がある。油断せずに、生徒が安心して通える学校づくりを目指してほしい。
	6 支援	様々な困難のある生徒の内面理解を深め、適切な支援を行う。	障害者差別解消法に基づき、困難を抱える生徒・保護者への支援を行う。	①合理的配慮について、関係者との合意形成を図りながら実施する。 ②障害者差別解消法の理念と本校の支援内容について全校周知を図る。 ③「四中のサポート体制」という冊子を配布し、全保護者に本校の特別支援教育について理解してもらえるようにする。	3.0		4		障害者差別解消法の合理的配慮についてはまだ不十分である。合わせて、学校の認識転換を図っていくことが第一課題である。	6月の道徳授業地区公開講座の際の性的少数者に関する講演会は、人権を考えるうえで意義がある。また、他の人権課題にも広げていってほしい。
	7 安全	生徒の危機管理意識を高めるとともに、自他の命や安全を守るようにする。	情報通信機器および巨大地震を中心に危機管理意識を高める。	①情報通信機器の安全な使い方について、セーフティー教室を開催する。 ②生徒の情報通信機器の取り扱いについては、保護者の理解・協力を得るため年度当初の保護者会にて専門家による講話を実施する。 ③巨大地震発生時の対応をはじめ、様々な安全課題に取り組む。	3.2		3		携帯電話等は、ご家庭での約束と監督が欠かせない。今後とも生徒への繰り返し注意喚起とともに、家庭との連携を図っていく。	安全という点では施設や機器などにお金をかけていく必要があるが、その使い方の教育にもお金をかけることで携帯電話等の事故防止につながる。
	8 進路	総合的な学習の時間を活用し、3年間系統的に進路指導を行う。	総合的な学習の時間を活用し、3年間系統的に進路指導を行う。	①将来への希望を抱き、その実現のために主体性を育む。 ②系統的な進路指導により、自己理解、社会理解、情報活用能力を育む。 ③1学年では職業調べ、2学年では職場体験学習及び上級学級体験、3学年では自己の進路選択といった系統的な指導を行う。						
特別活動・その他	9 学級	学級活動を通して、生徒全員が大切な居場所であることを実感できるようにする。	仲間を大切にしたい学級づくり(全員が仲間、違いを尊重、礼儀)を推進する。	①ユニバーサルデザイン化により、学級が大切な居場所として機能させる。 ②教室環境を整えるとともに、仲間を大切にできる学級をつくる。 ③生徒のもつ個性の多様性を係り活動等に生かし学級づくりを行う。	3.4		4		仲間を大切にできる学級づくりを推進する。「①全員が仲間、②違いを認め合う、③礼儀を守る」の3点を大切にしていく。	生徒たちはとても落ち着いて学校生活を送れている。教育環境という点では、今回特別教室にも空調設備が整い、学習に集中できて良いと思う。
	10 行事	行事を通して、連帯感と責任感を高めるとともに良い校風を育む。	本校の伝統と校風を踏まえ、生徒会組織を活用しながら企画・運営を行う。	①運動会と合唱コンクールの2大行事を通して生徒の連帯感と責任感を育む。 ②1学年の校外学習、2学年の移動教室、3学年の修学旅行の実施にあたり、発達段階を踏まえた目標を定め、系統的に自主性と自立心を育む。	3.3		4		2学期の合唱コンクールに向けて全力で取り組む。また、1年校外学習、2年移動教室、3年修学旅行で連帯感、責任感を育む。	各行事のねらいを踏まえて有意義な活動になるようお願いしたい。また、ベテランの教員が多くなったが、どう学校を変化させていくか楽しみである。
	11 自治	自主的・実践的な生徒会活動を通して、学校生活の課題解決を図る。	学校生活や地域社会の課題を自らの課題として捉え、行動できるようにする。	①いじめ防止の取り組みとともに、学校生活が楽しくなるよう取り組ませる。 ②昨年度実施した「いじめ防止のための学級決意表明」を活かしていく。 ③役員以外の一般生徒も、四つ葉のクローバー運動(思いやり、正義、助け合い、伝統)等、生徒会の一員として行動できるようにする。	2.9		3		11月のいじめ防止フォーラムに向けて、いじめ防止の取り組みを進展させていくなど、生徒の自治力を育てていく。	生徒会活動では、例えばカバンの重さについて、どのような解決策があるか考えさせるとよい。主権者教育も兼ねて実施するとよい。
	12 特色	生徒、保護者、地域にとって親しめるよう、特色ある学校づくりを推進する。	関係機関や外部講師等の招聘等により、読書およびスポーツに親しませる。	①オリンピック・パラリンピック推進校として、スポーツに親しむとともに障害者に対する理解を深める。1学年はブラインドサッカー、2学年はゴールボール、3年生はポッチャ教室を開催する。 ②読書活動を推進し、毎朝10分間の朝読書を年間を通して実施する。	3.2		3		朝読書は継続して行っていく。障害者理解については、パラリンピック種目の体験授業を行っていく。(2年実施済み)	朝読書やパラリンピック種目以外にも、喫煙防止、講演会、小学校との連携など多くの取り組みを行っているが、もっと宣伝した方がよい。

解説

この「学校関係者評価書」は、生徒・保護者対象のアンケート結果を基に、学校側が課題を提示し、学校関係者(学校運営協議会委員)からの評価(意見)をまとめたものです。

「努力指標」とは、学校側の努力状況です。4(ほとんど達成した)、3(達成できた部分が多い)、2(達成できない部分が多い)、1(ほとんど達成されていない)となります。

「成果指標」とは、生徒および保護者対象のアンケート結果(ABCD4段階)を総合した評価です。AB合計の%数値が、90%以上で4、70%以上で3、50%以上で2、50%未満で1となります。